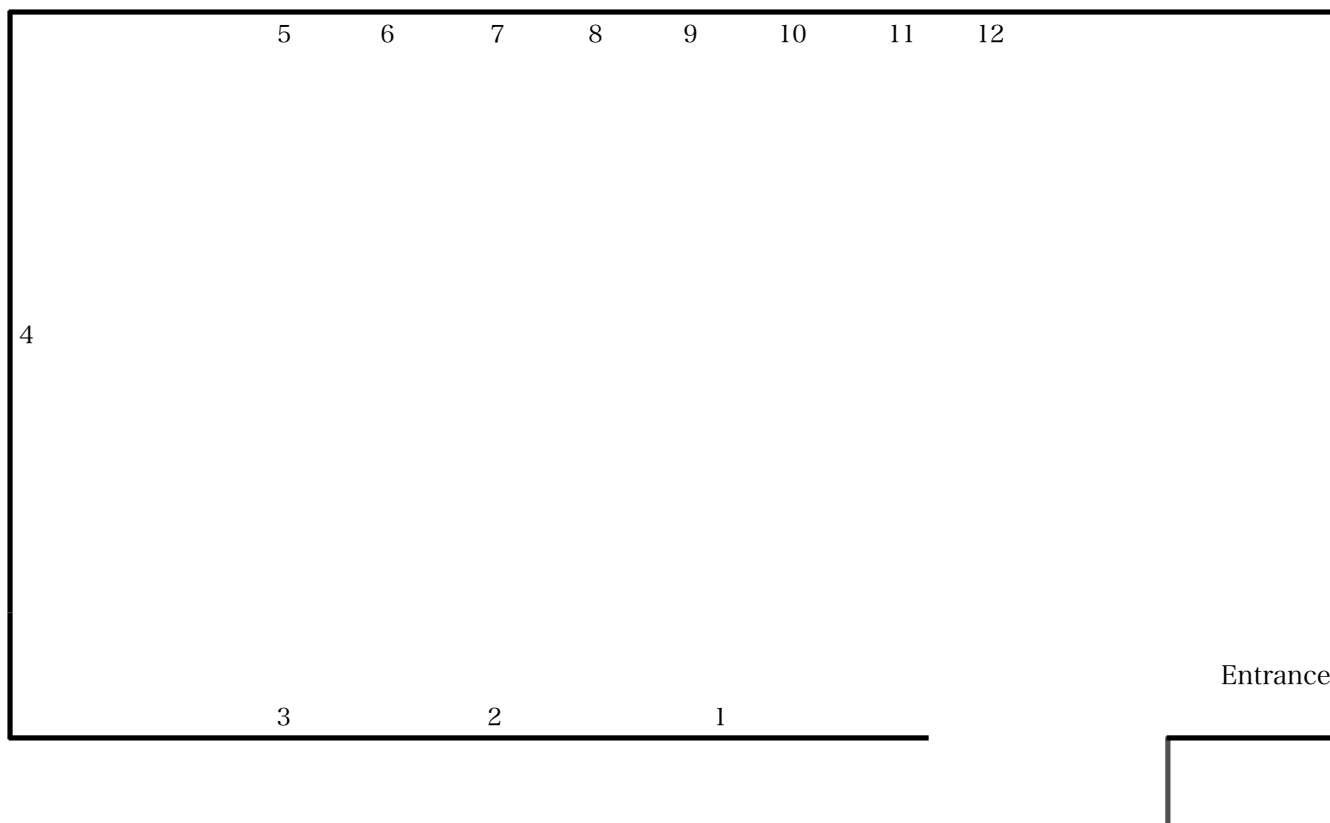


平田星司展「離脱する色彩-あるいはPhoton」追加会期 2023.1.7(sat) - 1.15(sun)



No	作品No	作品名	制作年	サイズ	素材/技法	価格(税抜)	価格(税込)
1	2213-01	Photon III(カクテルグラスと砂時計)	2022	220×1000×200	台座 ラボジャッキ 写真 板ガラス レモンの皮 木材 ジルコンサンド アルミ	¥280,000	¥308,000
2	2213-02	Photon II(レモンチェロとナットクラッカー)	2022	220×1000×200	台座 ラボジャッキ 写真 板ガラス レモンの皮 胡桃 アルミ	¥280,000	¥308,000
3	2213-03	Photon I(うぐいす型レモン絞り器)	2022	220×1000×200	台座 ラボジャッキ 写真 板ガラス レモンの皮 アルミ	¥280,000	¥308,000
4	2213-04	静物 - オイルの缶とレトロな瓶と	2022	396×205×200	棚 オブジェに黒鉛 顔料 ビニルエマルジョン	¥280,000	¥308,000
5	2213-05	城 no.1(北東から)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
6	2213-06	城 no.2(夕闇が迫る)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
7	2213-07	城 no.3(怒りなのか、それとも)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
8	2213-08	城 no.4(冬)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
9	2213-09	城 no.5(南西から)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
10	2213-10	城 no.6(話し合いがもたれる)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
11	2213-11	城 no.7(壊れたパイプオルガン)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000
12	2213-12	城 no.8(門の前で)	2022	370×750	綿布 アクリル	¥300,000	¥330,000



平田星司 HIRATA seiiji

1967 東京都生まれ
1994 ブライトン大学絵画科 卒業 首席
1996 ロンドン大学スレード美術校修士課程絵画科 修了

[主な個展]

2022 「離脱する色彩-あるいはPhoton」 galerieH/東京
2021 「袋小路の記憶」 bluesdress substitute/東京
「線の手触り 崩れゆく風景」 galerieH/東京
2020 「バロック的な庭師」 galerieH/東京
2019 「One Shot Measure and Other Objects」 galerieH/東京
2018 「Root」 galerieH/東京
2017 「イソモルフ ISOMORPH」 POST Gallery 4GATS/東京
2015 「化体説-静物による」 ギャラリー現/東京
2013 「Unbound : Possibilities in Painting」 現代ハイツ・ギャラリーDEN & .St/東京
「Still Life & Natura Morta」 GALERIE SOL/東京
2012 「ルクレティウス」 藍画廊/東京
2011 「Various Skills vol.3」 トキ・アーツスペース/東京
2010 「干満な反復」 現代ハイツ・ギャラリーDEN/東京
2009 「reawake」 ギャラリー現/東京
2008 「界面」 藍画廊/東京
2007 「赤と黒」 GALERIE SOL/東京
2006 「静かな広場」 GALERIE SOL/東京
2005 「シンポジウム」 ギャラリー森/三浦市 神奈川
2004 「その手の話」 藍画廊/東京
2003 「紙の家 The House of Cards」 新宿区立区民ギャラリー/東京
2002 「残されるもの/Leftovers」 藍画廊/東京
2001 「1つの部屋に、1つの絵画。」 藍画廊/東京
2000 「マイナスの絵画」 藍画廊/東京

[主なグループ展]

2018 「はるかな時のすきまで-ephemeral / eternal」 旧田中家住宅/埼玉
「皮膜の形相-Phases on Surface」 宇フォーラム美術館/東京
2017 「海のプロセス-言葉をめぐる地図 (アトラス)」 第6回 都美セレクショングループ展
東京都美術館/東京
2015 「エスティック・ライフ-オートマチック」 トキ・アーツスペース/東京
「メランコリア」 アーツスペース煌翔/東京
「See Side by Side・倉重光則 平田星司」 ギャラリー箱/荒井浜 三浦市
2012 「9 expressions」 現代ハイツ・ギャラリーDEN/東京
2010 「エスティック／ライフ」 中根秀夫 平田星司展 トキ・アーツスペース/東京
2000 「海のプロセスとホームセンター」 田口博康 平田星司展 練馬区立美術館区民ギャラリー/東京
2009 「空間の身振り」 アートプログラム青梅/東京
1995 「South Bank Photo Show "Home Truth"」 Royal Festival Hall/London *prize winner

[その他]

2013 2013 香港 M+ 企画 「Inflation!」 展でWai Ping Tamの制作コーディネーターをする



<http://bit.ly/2UGM1iX>
Artist Page_平田星司



<https://bit.ly/3dKzyqA>
Online Store_平田星司

作品について

「城」 今年の夏、渋谷にある洋服店で「転落」（2012年制作）という絵画 — 垂直のストライプからなるアクリル画で、ストライプはキャンバスからはみ出し宙吊りになっている — を展示した。猛暑とコロナ禍が続いていたこともあって、店内の換気を配慮した空気の流れは、蜻蛉の羽のような薄い色彩の皮膜を揺らしていた。その様子は音のしない楽器のようだった。

「転落」では画面のすべてをストライプで覆っていたが、「城」ではより少ない本数で構成されている。ベースの素材も絵画用の下地を施した白いキャンバスから服飾用の柔らかいコットンのものに変えた。あらかじめ考えたことではなかったが、結果として少ないストライプからなる形象と現れた空白だけが残った。

「Photon（光子）」 タイトルは物理学の電磁波などで扱う素粒子の一つである光粒子の別称から。作品は卓上用のジャッキの上に、透明なガラス板で覆った写真、そしてその上に小さなオブジェが乗っている。写真のイメージは長年続けている、「Still Life(静物の表面に直に顔料を塗った絵画的な作品)」を真上から撮影したものだ。元々「Photon」とは関係がなく、必要から静物の位置を把握するためだったが、どこか惑星の表面のようなイメージは真上からの撮影された静物という事実にもかかわらず平面に圧縮されたようだった。光によって封じ込められた写真のなかのオブジェ例えば“ウグイス型レモン絞り器”が発射台のようなジャッキの伸長に合わせてイメージの連想を呼び、レモンの皮となって立ちあがる。

2022 11月

平田星司

<https://seijihirata.tumblr.com>